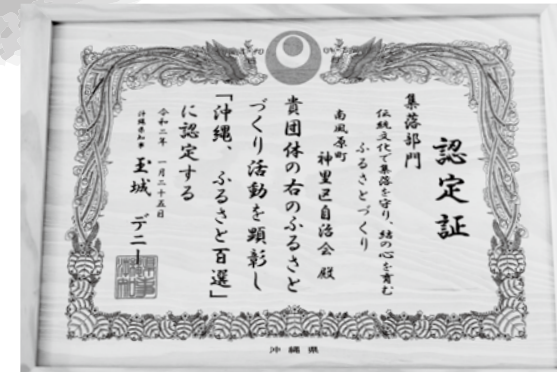


「沖縄、ふるさと百選」 認定!!



「沖縄、ふるさと百選」とは？

農林水産と関わりを持ち、地域が誇れる魅力ある「ふるさと」づくりに取り組んでいる団体に対し沖縄県知事から与えられるものです。魅力ある「ふるさと」を、県民に広く紹介することで、より良い地域づくりに寄与することを目的としています。



◆ どのような内容で認定されたの？

神里自治会では、毎年、旧盆（旧暦7月13日～7月15日）と十五夜（旧暦8月10日～8月15日）に獅子舞の奉納（シーサーケーラシー）が行われています。奉納は、獅子を預かっている田本・仲門・世理・新屋・野呂殿内の5カ所の宗家を訪れた後、集落の子どもたちと戯れる行事です。また、神里区自治会を中心に、青年会・

女性会・老人会と連携しながら「腰ユックイー（農家の腰休め）」「盆踊りとエイサーの夕べ」などの自治会行事を大切に守り続けています。

区民の各行事に対する一致協力するカンザトンチュの精神が、地域が誇れる魅力ある「ふるさと」づくりに取り組んでいると認められ「沖縄、ふるさと百選」に認定されました。

◆ 伝統行事の始まりは？

約300年ほど前に、神里区で天然痘が流行し、それを追い払うために作られたのが始まりと言われています。神里地区全体が獅子の魔力で守られ、地域の繁栄に繋がる行事です。

◆ 獅子の特徴

神里の獅子はメス。見分ける方法は、獅子のおでこにあります。オスはおでこに「王」という文字、メスは「月」の絵が描かれています。メスの獅子は沖繩の中でも珍しく、近隣では首里の池端にいるそうです。また神里の獅子には「つがい」があり、相手は本部の獅子です。神里の照屋善彦（田本）さんのお宅で大切に保管されています。

◆ 町長からのコメント

神里の認定を非常に嬉しく思っています。宮平や本部にも獅子舞があるが、神里の獅子舞は地元・住民の生活に密着した存在です。南風原町が発展する中で、ふるさとらしさを保つ神里地区、これからも神里の長所を伸ばして欲しいです。

◆ 区長からのコメント

「伝統文化で集落を守り、結いの心を育むふるさとづくり」の認定を非常に嬉しく思っている。区民みんなで取った認定なので、区民みんなでお祝いしたいです。

※今年 は旧盆

（新暦8月31日～9月2日）

十五夜

（新暦9月26日～10月1日）

